

# 人文死生学宣言

## 私の死の謎



The Enigma of  
My Own Death:  
Thanatology as Humanities

渡辺恒夫  
三浦俊彦  
新山喜嗣

編著

死にゆく他者を見守り支援するばかりだったこれまでの死生学を超え、人間最大の難問たる「一人称の死」を、哲学や人類学など人文学の知によって探究。高齢化社会で誰もが長い時間向きあわねばならない自らの死を徹底的に思索する。

春秋社  
定価(本体2500円+税)

# あらゆる臆見をはぎとって 透明な死の核心へ!

## 内容

まえがき——人文死生学宣言 (渡辺恒夫)

### I 入門篇——人文死生学への招待

- ・第1章 「死一般」でなく「私の死」を謎として自覚するための実験実習 (渡辺恒夫)
- ・第2章 われわれは死を克服することが可能なのだろうか——「死への準備教育」と「スピリチュアルケア」への疑問 (新山喜嗣)
- ・第3章 他界体験と仮想現実 (蛭川立)

### II 各論編——死と他者の形而上学

- ・第4章 〈他者〉とは時間を異にした〈私〉なのか——現象学で幼少期の体験を解明して遠望される死生観 (渡辺恒夫)
- ・コラム「人文死生学研究会創生の頃」 (重久俊夫)
- ・第5章 ナーガールジュナから構想する生と死のメタフィジックス (重久俊夫)
- ・第6章 死——自分が非在となる可能世界 (新山喜嗣)
- ・第7章 一人称の死——渡辺・重久・新山論考への批判 (三浦俊彦)
- ・コラム「ベイズ推定とは何か・記号論理入門」 (三浦俊彦)
- ・付論 第7章の批判へのコメント (渡辺恒夫・重久俊夫・新山喜嗣)
- ・あとがき (新山喜嗣)

## 著者紹介

渡辺恒夫(東邦大学名誉教授 心理学/現象学)

三浦俊彦(東京大学文学部教授 美学/分析哲学)

新山喜嗣(秋田大学医学部教授 精神病理学)

重久俊夫(著述家/教育職 歴史学/インド仏教)

蛭川立(明治大学情報コミュニケーション学部准教授 人類学)

春秋社 2017年11月20日発行(予定)